

第3章 重点プロジェクトの進捗状況

「環境基本計画」では市の環境をよりよくする上で、他の施策より優先的に取組むことが必要な施策や着実な進展が求められている事項について、市が取組みを進めている個別目標の中から「重点プロジェクト」を設定しています。

3-1 里山の保全・活用モデル事業の推進（重点プロジェクト）

【 中心となる担当課：都市整備課 】

農家や地元の方々の暮らしの中で育まれてきた樹林地、農地、水路、歴史・文化財などが共存する里山環境を守るために、先進的な事業を展開し、農業従事者と周辺住民との交流、住民による樹林地の維持管理、新鮮な農作物の供給、高齢者の生きがいづくり等につなげていきます。

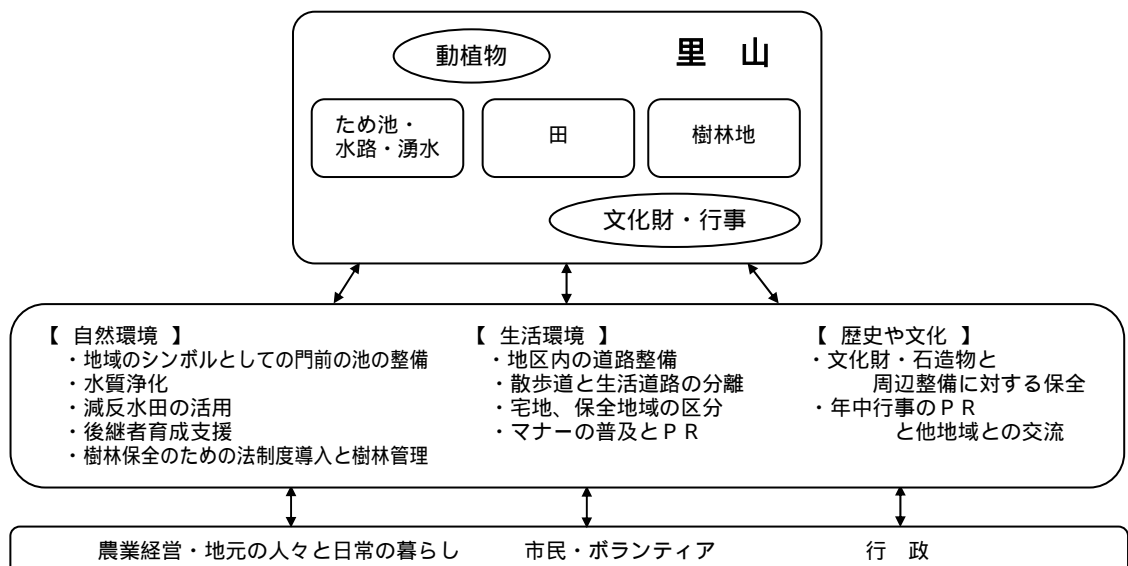
平成 17 年度実施状況

印西市では結縁寺地区をモデル地区に設定し、里山の保全・活用事業を進めています。平成 17 年度は結縁寺周辺の住民とボランティアにより、結縁寺門前の蓮田が整備され、管理を行っています。これまでに整備してきた散策路とともに地域のシンボルとして、歴史文化財と周辺環境の保全・活用が図られたと考えます。



平成 18 年度の予定

結縁寺地区をはじめとした市内の里山環境について、農業従事者、周辺住民と協力・連携を図りながら保全・活用を検討していきます。



3-2 生物モニタリング調査の実施（重点プロジェクト）

【 中心となる担当課：生活環境課 】

谷津田環境をはじめとした貴重な自然環境を守っていくため、市内に生育・生息するさまざまな生き物を毎年モニタリングし、地域の自然環境や変化を把握していきます。また、市民の方々が生き物とふれあうことで、自然への関心や保全への理解を深める機会を創出します。

平成 17 年度実施状況

市民が調査員となって市・教育機関等が連携・協力しながら市内全域のモニタリング調査を実施し、「身近な生き物マップ（鳥類編）」を取りまとめました。

これは平成 15 年度の「トンボ編」、平成 16 年度「魚類・両生類編」に続くもので、平成 17 年度には夏・冬 延べ 114 名の方々に参加をいただきました。このモニタリング調査では、サシバやフクロウなどの年々減少しつつある種など 62 種もの発見があり貴重な情報となったほか、市民への自然環境に対する啓発がはかられたと考えています。



（サギ類 夏 調査結果）

項目	内容
調査期間	夏：平成 17 年 7 月 16 日 ~ 8 月 31 日 冬：平成 17 年 12 月 23 日 ~ 平成 18 年 1 月 22 日
対象種	鳥類
調査した生き物	夏：ツバメ類、サギ類、カワセミ、シジュウカラ 冬：ジョウビタキ、カモ類
参加人数	夏：55 名 冬：59 名 延べ 114 名

平成 18 年度の予定

平成 18 年度は、昆虫類を対象にしたモニタリング調査を実施します。今後も調査の対象種を変えながら、事業を継続していく予定です。結果については 12 月末を目途に「身近な生き物マップ（トンボ・チョウ編）」として取りまとめ、インターネット、ホームページ等で公開する予定です。

項目	内容
調査期間	平成 18 年 7 月 21 日 ~ 8 月 31 日
対象種	昆虫類
調査する生き物	トンボ（4 種）、チョウ（2 種）

3-3 町営塵芥焼却場跡地の環境調査の推進（重点プロジェクト）

【 中心となる担当課：生活環境課 】

町営塵芥焼却場（竹袋焼却場）は、現在、焼却場・廃棄物の埋立地となっていますが、埋立てられた廃棄物は現存し、廃棄物の流出や地下水への^{しみしゅつ}滲出などといった周辺環境への影響が懸念されています。周辺住民への不安を取り除くため、水質や土壌の環境調査を実施し、将来にわたり周辺環境を保全していきます。

平成 17 年度実施状況

焼却場跡地場内の観測井（6本）、場外の観測井（5本）、湧水2箇所、池1箇所、既設井戸1箇所の水質調査と、臭気及び湧出ガス調査を実施しました。

場外の観測井は、県の指導により平成17年度に設置しました。

調査結果からは、現状の焼却場跡地での地形の改変を行わない限り、直ちに周辺環境への悪影響を及ぼす危険性は低いことが分かりました。



調査の風景

平成 18 年度の予定

敷地周辺の将来的な環境保全のため、モニタリング調査を継続し、経年変動を把握していく予定です。また、あわせて対策工及び対策時期の検討も行っていきます。

	モニタリング調査項目	調査の摘要
夏季	臭気分析	場内観測井4箇所
	湧出ガス測定（3項目）	場内観測井4箇所
	水質分析（26項目）	場内観測井6箇所、場外観測井5箇所、湧水2箇所、池1箇所、場内既設井戸1箇所
冬季	水質分析（26項目）	場外観測井5箇所

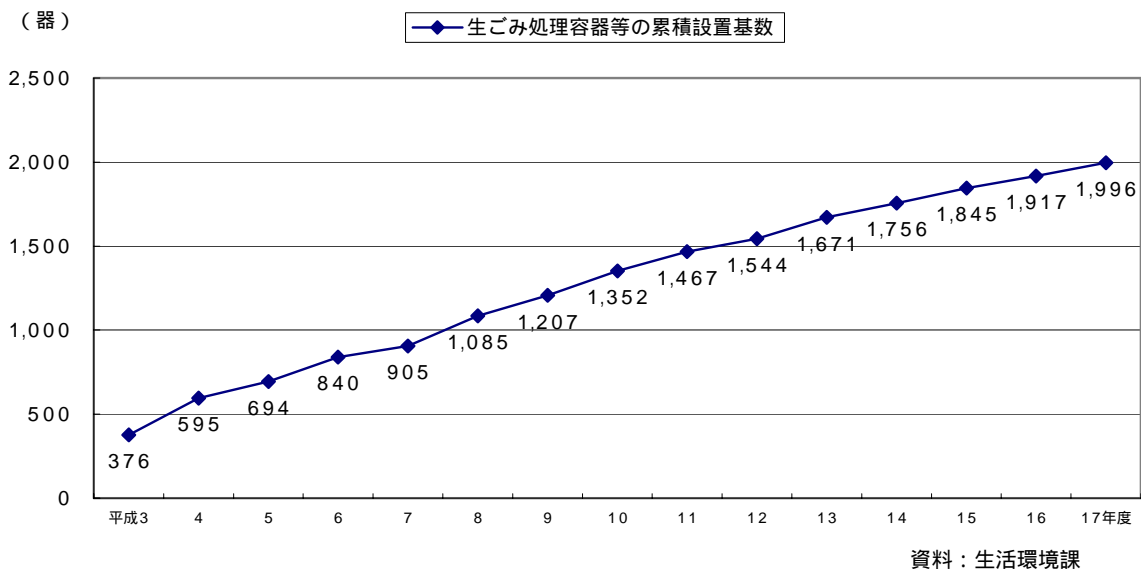
3-4 生ごみ減量堆肥化の推進（重点プロジェクト）

【 中心となる担当課：生活環境課 】

家庭から出る燃やせるごみは、ごみの総排出量の大半を占めています。その中でも、生ごみの割合は大きく、ごみの排出量を減らしていくためには、生ごみの堆肥化を積極的に進めていく必要があります。

平成 17 年度実施状況

生ごみ処理容器などを購入した家庭への補助金交付を継続実施し、平成 17 年度は、新たに 79 基の購入補助を行い、これまでの累積設置基数は 1,996 基になりました。なお、「生ごみ処理容器等購入費補助金制度」に関する PR は、広報いんざい（3 回掲載）やホームページ等を通じて行いました。



平成 18 年度の予定

広報やホームページ等を通じて「生ごみ処理容器等購入費補助金制度」の普及・啓発活動を行います。また、生ごみ処理機でできた生成物の回収を行います。

コラム ～ 生ごみ処理容器等を購入すると補助金が交付されます ～

生ごみ処理機：購入額の 2/3 に相当する額を補助。(ただし、限度額は 40,000 円とする)
 生ごみ処理容器：購入額の 2/3 に相当する額を補助。(ただし、限度額は 3,000 円とする)
 一般的に 4 人家族から出る生ごみは、1 日平均約 700g と言われており、生ごみ処理機の機種にもよりますが、生ごみを 1/4 から 1/10 程度に減容できます。

【 問合せ先：生活環境課 クリーン推進班 電話：0476-42-5111 内線 364 】

印のついている用語の詳細については、資料編 P.58 以降の用語解説を参照下さい。

3-5 印西市環境マップの作成（重点プロジェクト）

【 中心となる担当課：生活環境課 】

印西市には、樹林地や農地、水辺、歴史文化財などの環境資源が残されており、市内の特徴をもっと知りたいという声が聞かれています。市民からの情報を集積するとともに、マップの作成を通じて市民・事業者等への情報提供、活用を目指していきます。

平成 17 年度実施状況

身近な生き物マップの作成

生物モニタリング調査を通じて市内全域の鳥類の生息状況を把握し、その結果を「身近な生き物マップ（鳥類編）」として取りまとめました（重点プロジェクト 参照）。

環境情報の集積

広報いんざいを通じて市内に残っている湧水や巨樹・巨木林の情報を募集しましたが、平成 17 年度は情報がほとんどありませんでした。

平成 18 年度の予定

身近な生き物マップの作成

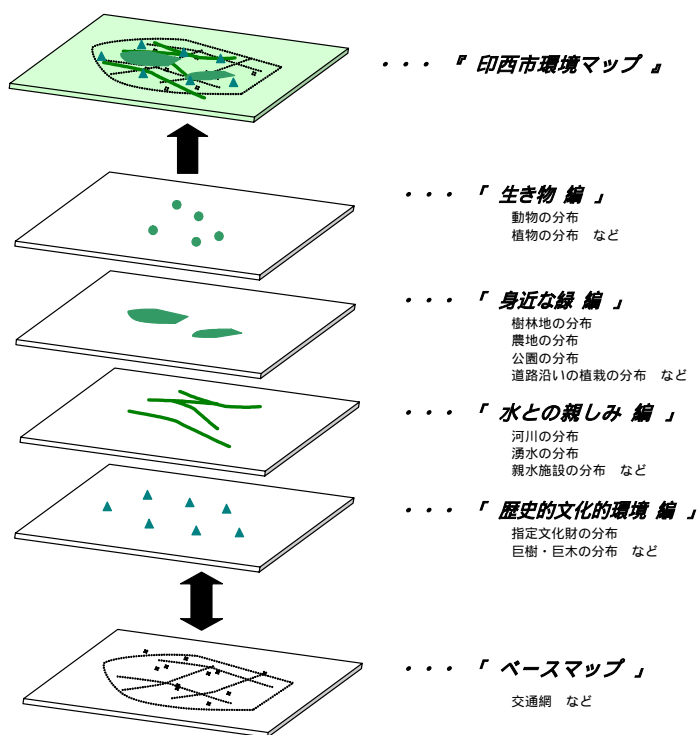
市内に生息する昆虫類（トンボ・チョウ編）の生息状況に関する調査を実施し「身近な生き物マップ」として取りまとめます。

環境情報の集積

平成 17 年度に引き続き、湧水・巨樹・巨木林に関する情報を収集し、環境マップ作成準備を進めます。



『 印西市環境マップ 』のイメージ



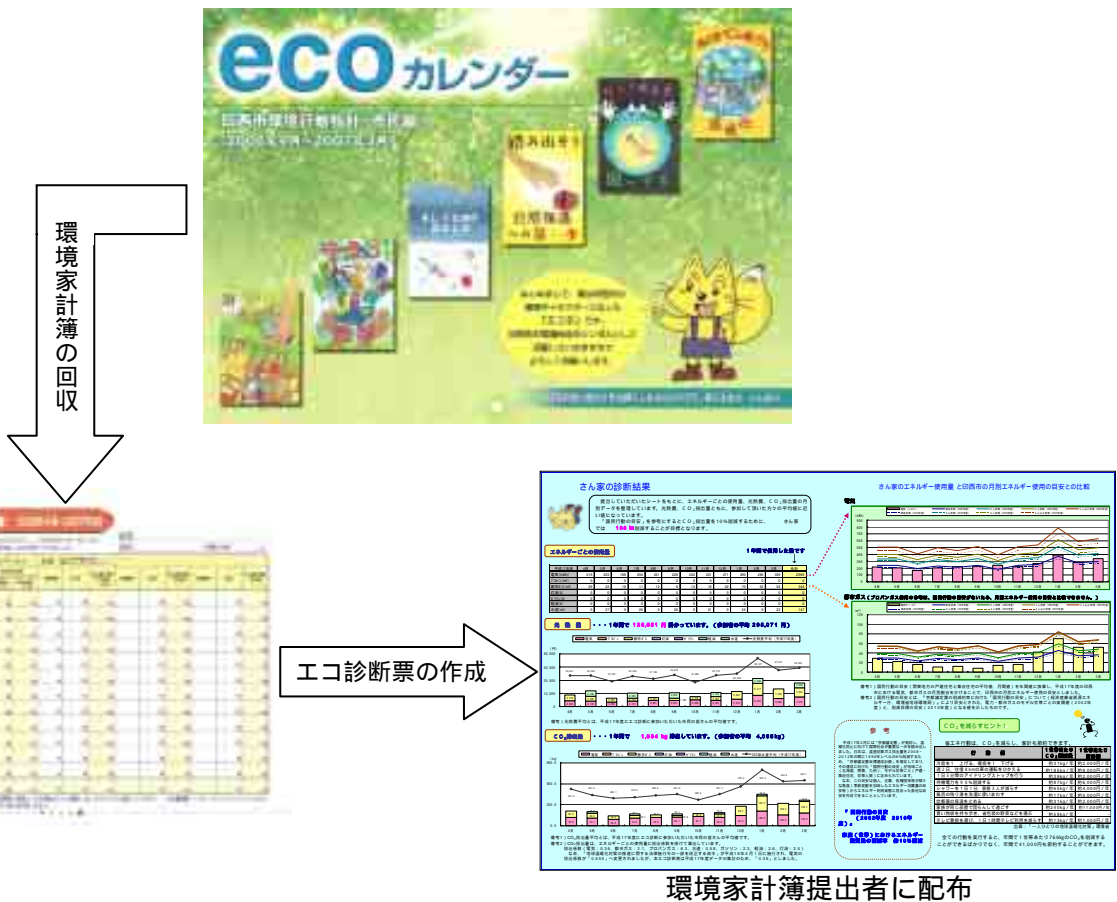
3-6 印西市環境行動指針の作成（重点プロジェクト）

【 中心となる担当課：生活環境課 】

日常生活や事業活動などによる環境負荷の影響により、地球温暖化やオゾン層の破壊など地球規模の環境問題にまで発展しています。環境にやさしい行動をとることが求められており、市民・事業者は自ら意見やアイデアを出し、環境行動指針の作成につなげます。

平成 17 年度実施状況

平成 16 年度に引き続き、環境推進市民会議で行動指針の内容等を検討し、カレンダー形式で「印西市環境行動指針（市民編）（以下、「市民編」とする）」を作成しました。また「市民編」を全戸配布することで、普及啓発を図るとともに、この eco カレンダーに付いている環境家計簿の回収、エコ診断票の作成を行い、環境家計簿提出者へ配布しました（平成 17 年度回収枚数：17 枚、CO₂年平均排出量：4085kg）。



平成 18 年度の予定

平成 17 年度に引き続き、環境推進市民会議、環境推進事業者会議を開催する予定であり、「平成 19 年度版 印西市環境行動指針」の作成、配布により、市民の環境行動につなげていきます。